

令和元年
8月

2019年
みやま
第255号

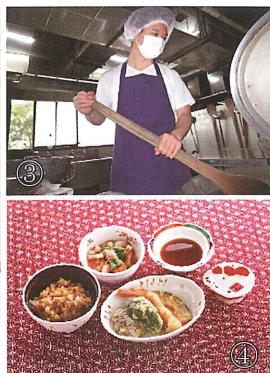
病院理念
『患者さまの不安をとること』
当院の基本方針
「地域に根ざした安心できる医療」
「精神科医療の充実」
「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団 光生会 平川病院

病院目標『時代が求める価値ある病院づくり』～ネットでつなごう医療の和～

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/> 〔e-mail〕 hhsp1966@violin.ocn.ne.jp

栄養ケアの専門情報誌「ヘルスケア・レストラン」の取材を受けました



ヘルスケア・レストラン9月号（8/20発売）掲載の画像

①当日勤務の栄養師職員 ②・③取材時の調理を担当した岡村栄養士 ④行事食 ⑤記事筆者の田中管理栄養士

(株)日本医療企画発行の「ヘルスケア・レストラン」という栄養ケアの専門情報誌に、栄養科が取材を受けました。今回取材して頂いた「ヘルスケア・レストラン」は、病院・福祉施設などの栄養ケアの向上に役立つ1冊として、保険・医療・福祉分野に広く浸透しており、主に管理栄養士・栄養士や調理師の方々に読まれる月刊誌です。食事で病気を予防し、治療効果をあげる必要性が認識されつつある現在、それらに対応する能力を身につけるための多方面からの情報が満載されています。

当院が取材依頼を受けた内容は、ヘルスケア・レストランの紙面「RD's Kitchen」という企画で、巻頭カラー8Pにわたって当院のある1日分の特別治療食および9月の行事食、管理栄養士の食事を通した取り組みが紹介されます。特別治療食は当院で一番多い糖尿病食から「糖尿病食1600kcal」、9月の行事食は「敬老の日献立」を選択しました。1日分の食事には料理ごとのレシピや調理方法、管理栄養士のワンポイントアドバイスもあります。1週間分の献立には「1日分の栄養成分」も掲載されます。

取材当日は、当院のホールにて本格的な撮影が行われました。予想以上に本格的なセットに驚きましたが、栄養科出勤者全員の集合写真、少しおどけた個別写真、そして食事と順調に撮影が進みました。私自身は途中からインタビューを受けており、撮影風景を詳しく見ることは出来ませんでしたが、カメラマンが撮影した食事の写真は圧巻です。

今回の取材をとおして、食材の発注や病棟業務中の様子を浅見管理栄養士に、1日分の糖尿病食と行事食の調理を岡村栄養士が担当してくれました。浅見さん、岡村さん、ご協力ありがとうございました。

栄養科 主任 管理栄養士 田中 康之

【表紙】栄養ケアの専門情報誌の取材を受けました【P2】院長挨拶【P3】本を出版しました

【P4】病棟たより（東5病棟）【P5】薬剤科から【P6】地域生活支援室より【P7】平成30年度退院先について【P8】新しい仲間 外国人就労者紹介

関東厚生局の適時調査がありました

8月2日の金曜日の午後、関東厚生局の適時調査がありました。以前は7, 8年に一度くらいのペースで回ってきて、いろいろ厳しい指摘があり、父の時代は基準寝具で指摘を受け、2000万円以上の返還命令があったこともありました。しかし本当の問題は、基準となる医師数、看護師数を満たせなかったことでした。看護師が不足している分、看護助手さんが多くいて、看護師さんを助けてくれていました。というわけで、父の時代は、基準を満たしていないため、調査というだけで戦々恐々と、暗い気持ちになったものです。でも、今の平川病院は違います。業務量が増え、相対的には人員不足だと思いますが、診療報酬の基準は満たしています。少子高齢化の影響で、看護助手が不足しているため、病棟によっては看護師がその代行という人員配置のところもありますが、とにかく、酒井看護部長を中心とした看護部はしっかりと運営されています。また、栄養科、薬剤科など診療協力部、そして、和田次長が全体統括をしてくれて素晴らしいと思います。適時調査当日は、4人の担当官が来院され、厳格な細部に渡る調査が行われました。調査は本当に淡々と進み、大きな指摘はなく、何事もなかったように終わりました。私は講評まで残り、その後すぐに都の会議への出席のため病院をあとにしましたが、登庁の車の中で、現在の平川病院のスタッフの素晴らしい、頼もしさを感じ、嬉しくなってしまいました。本当に、病院職員のお蔭で、安全な平川病院が維持されていると思います。こんな紙面でいうのもおかしいかもしれません、みんなに感謝します。

院長 平川 淳一



TOPICS! 本を出版しました

～精神疾患が合併していても身体リハビリテーションはできる！～

現在日本の精神科病院内で、骨折などの身体リハビリテーションが専門的に行われる機会は希薄です。このようなケースでは、本当はどこの施設で診療するのが患者にとって一番いいのか？

平川病院では約23年前からこの問題に取り組み、現在まで飛び降り多発外傷例を筆頭に約2,000例近くの精神科疾患患者の身体合併症に対してリハビリテーションを行ってきました。

今回平川淳一病院長の号令のもと、精神科患者のリハビリ専門職を目指す方々向けに精神科病院内で実際に実際に行われている詳細についての解説本を出版する運びとなりました。特にリハビリテーション実施に関しては、各症例形式に細かく解説してあります。

本書の編集を終え、改めて執筆者名簿を見渡すと、大半が平川病院従事者でありました。各課の連携が重要であり、精神科のみならず、リハ科（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、整形外科、内科、歯科、看護科、精神保健福祉士、公認心理師、臨床検査技師、管理栄養士など、かく多くの分野・人材を結集した1冊であるかと、平川病院の層の厚さに驚き、ほくそ笑んでいる次第です。

本書の特徴はイラストや図表を多用して、より容易に精神科病院や患者像を理解していただくべく工夫をしました。

誤嚥性肺炎、摂食嚥下リハや、認知症についても紙面を加増して充実を図りましたので、精神科病院のみならず、老人病院における身体リハにも引用できるものと思います。

本書が精神科患者（病院）と、リハビリテーションスタッフとの架け橋になれば幸いです。



杏林大学付属病院 リハビリテーション医学・整形外科専門医 林 光俊

病棟から訪問看護に参加しています

私は今、東5階病棟で勤務しつつ、週1回程度訪問看護に参加しています。

私は急性期病棟にいるときに、急遽の入院で不穏・興奮状態の患者様を見て、「なんでこんな状態で入院しなければいけないんだ。もっと落ち着いている時に入院・加療していればこんなに辛くなかったんじゃないかな。」と感じていました。地域にいる時に客観的な観察・判断が出来ていれば、患者様本人やそのご家族・病院スタッフの負担が小さくなるのではないかと。しかし、この客観的な観察を本人や家族が行うのは、知識不足や距離が近すぎるという事もあり、難しいケースを何度も見てきました。その中である程度知識・経験があり、客観的に観察できる第三者が地域にいると良いのではないかと考え始め、訪問看護に興味を持ちました。

私が訪問看護を行う上で心がけていることは、利用者さんの個性を大切にするという事です。世の中には様々な個性があり、個性を活かしながらも地域で生活できるように援助していくみたいと思っています。その中で精神状態や地域で生活していく上での疲労を観察していくようになります。そして地域で生活し疲労が大きくなった段階で休息入院という形で入院し、疲労が回復した後は、再度地域へ戻っていくという形を目指しています。

また、退院前には訪問連絡会でショートカンファレンスを行い、スムーズな情報の共有化をはかっています。以前訪問看護を受けられていた方については、支援の形が残っていることが多く、比較的スムーズに地域での生活に戻っていきます。しかし、入院期間が長く、初回利用の方は何事も初めてのことが多く、不安を持たれる事が多いです。そのときに病棟と訪問看護の情報共有が出来ていると、初動がスムーズになり、不安も最小限に抑えることが出来ていると実感しています。



訪問看護に参加して思うことは、その利用者さんの人生は入院前・中・後と継続しており、その関わりも継続したものであると理想的であると思いました。そのためにはスタッフ1人では限界があるので、周囲を巻き込みながら継続したフォローを行なっていかなければ良いと思っています。

東5病棟 看護師 寺本 憲祐

クロザリルってどんな薬？

薬剤科から

今回、みやまの原稿を書くにあたり、お題を何にするか色々と悩んだ末、ある抗精神病薬が、使うことが出来るようになって10年経つことを思い出し、『クロザピン』にしようと思い立ちこの内容で進めたいと思います。私自身この薬まだまだ新しい薬だな～と思っていたのですが、もう10年も経ってしまうとは…。

クロザリルは元々、1971年に欧州で使用が開始されました。しかしながら、この薬剤特有の『無顆粒球症』と呼ばれる白血球の一部の成分が減少し、酷いとほとんど無くなってしまうという重篤な副作用が問題となり、使用が中止となつた経緯を持つ薬剤です。その後、この薬剤を基本骨格としてオランザピンやクエ

チアピンなどの代表的な抗精神病薬が登場しました。ところが医学が進歩した現在、定期的な血液検査で患者さんの状態をモニタリングし、この重篤な副作用をコントロールする事が出来るようになりました。そのため、日本では2009年に患者さんの状態を定期的にモニタリングすることを大前提に使用が再開され、全世界60か国以上で使用されています。そして現在、『治療抵抗性』の統合失調症に有効な唯一の薬剤として使用されています。『治療抵抗性』とは①きちんと薬を飲んでいても効果がない②抗精神病薬を何種類か試しても状態が変わらず、今の薬では治療継続が難しい③足がムズムズしたり、じっと座っていられない等の副作用で十分に薬が飲めない状態を指します。これらの難治性の統合失調症にも使用することが出来るという特徴を持ちます。

そして現在、全国で500以上の医療機関がクロザリルを使用することが認められた病院として登録され、当院でも2013年から使用を行ってきました。今後も、安心・安全にクロザリル治療を患者さんに提供出来るようチーム一丸となり連携して行きたいと考えています。

薬剤科 科長 大塚 晃弘



入職して4ヶ月がたちました

地域生活支援室より

私は現在美山ヒルズで世話人として生活支援を通して入居者の皆さんとかかわっております。入職してから約4ヶ月経ち、入職したての頃よりも入居者の皆さんとかかわることが増え、また先輩方から業務やかかわり方等教えてもらい日々新しいことを吸収し成長できる場であると感じています。

美山ヒルズでは、入居者の方々の生活支援を主に行っています。金銭・服薬管理や掃除支援、買物同行・代行、相談支援等、日々の生活に密着した入居者との直接的なかかわりを通して、皆さんが何に困り不安を抱えているのか、また日々の楽しみ嬉しかったこと等共有し、関係機関と連携しながらより良い生活に繋がるための支援を考えています。私はこの4月から上京してきたため、ハ王子の特性や地域性が全く分からずにいたのですが、入居者の皆さんからハ王子の街並みや生活圏内の主要な施設など様々なこと



を教えて頂きながら、ようやくハ王子での生活に慣れてきたところです。また生活するための知恵等も家族から離れ、一人暮らしをスタートさせた私にとって、入居者の皆さんから教えて頂くことがあります。支援者という立場ではありますが、お互いに助け助けられ、今後も良い関係性を築いていけたらと思っています。

また、先輩方には本当に日々様々なことを学ばせてもらっています。日々の業務はもちろんですが、入居者との何気ない会話や面接をすぐそばで拝見し、職員間でのケース検討等、どのような視点で考え伝え、支援に繋げていくのか、すぐ近くで学ぶことができます。また何か疑問や不安があっても、すぐに先輩に聞ける環境にあり、とても風通しが良く居心地の良い職場だと感じています。

美山ヒルズは、昨年30周年を迎えた。制度も何もない時代から築き上げてきた歴史あるグループホームで支援に携われることを誇りに思います。まだまだ分からぬことだらけで未熟な私ですが、皆さんの手を借りながら少しづつ成長していけたらと思います。今後ともよろしくお願いします。

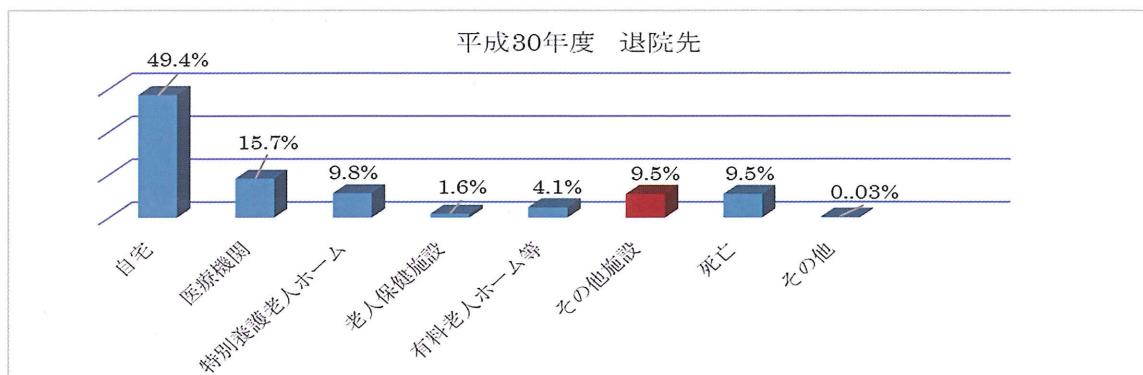
美山ヒルズ 世話人 渡邊 真衣

平成30年度 退院先について

平成30年度の平川病院の退院数は、579件でした。下記のグラフは退院先をまとめたものです（自宅：286件、医療機関：91件、特別養護老人ホーム：57件、老人保健施設：9件、有料老人ホーム等：24件、その他施設：55件、その他：2件）。

今回のみやまでは、この項目の中の『その他施設』についてご説明します。施設への退院数の中で、まず、『有料老人ホーム等』についてふれます。この項目の内訳は、『特別養護老人ホーム』、『老人保健施設』以外の高齢者の方が利用する施設とし、「有料老人ホーム」、「認知症のグループホーム」、「サービス付き高齢者住宅」をまとめています。『その他施設』はこれらの高齢者施設以外の施設で、以下の①～⑤の内訳でした。

- ①精神障害者の方が利用されるグループホーム（35件）
 - ②救護施設（13件） *1（注）
 - ③薬物などの依存症関連の施設（2件）
 - ④更生施設（1件） *1（注）
 - ⑤宿泊施設（3件） *2（注）
- ②の救護施設13件のうち7件は自省館というアルコール依存症の方が利用する施設で、③と合わせると依存症の方の施設は計9件でした。



施設への退院は、施設に入所中の方が、症状の悪化や生活の見直し等のために入院し、治療後に元の施設に戻られる場合もあれば、退院先として施設を検討し、相談や見学、体験入所など経て新たに入所される場合もあります。退院先の施設を種別ごとにみると、当院の精神科病院としての退院支援や地域生活支援が一部ではありますか見えてきます。退院までの過程の中で、当院の多職種がそれぞれの役割で患者様やご家族様、関係機関とやり取りをしており、当委員会の報告で日々の業務の成果が少しでも伝わればと思います。

*1（注）②救護施設 ④更生施設について

②、④とも生活保護法に基づく施設で、どちらの施設も身体的、精神的な疾病があり自宅での生活が困難な方が利用できる。両者の違いは、②は心身の状態をみながら安定した生活の場への移行を目指し、比較的高齢の方の利用が多く、④は社会復帰を目指し、比較的若く就労等を目指せる方の利用が多い。

*2（注）⑤宿泊施設について 所得が低く住宅を確保することが困難な方が利用する施設。

シリーズ 新しい仲間 外国人就労者紹介

前回の張さんと同じく、中国成都からはるばる平川病院に。点滴の実施管理が得意という内科勤務の李さん。日本に来た経緯と看護医療への今の思いを語って頂きました。

「大学の二年目から未来は日本で働くと決め、日本語を勉強し始めた。その後、日本語の授業を受けながら看護基本技術、知識を習得。2016年、卒業。日本語能力試験に合格するため、シャンハイで一年間日本語勉強に集中。2017年日本に到着。中国の看護免許証を持っているが日本では使えないで2017年から2018年の間に日本の看護師免許証習得を目指し集中。合格し2018年平川病院の内科に就職しました。

中国で社会人として働いたことはないので、平川病院は私のワーキングライフの始めです。働き始める前「病院は医者を中心 医療を提供する」というイメージがありました。しかし就労して考え方方が変わりました。多くの職（医者、看護師、ケアさん、PT、OT、ST、PSW、歯医者など）の協力で患者さんを中心に看護・医療を提供するのだと。外国で働くことは思ったより困難でしたが、先輩は丁寧に教えてくれて、毎日、喜んで仕事をしています。 李黎」

これからも彼、彼女たちの声をみなさんに紹介していきます。

広報委員会



編集後記

残暑お見舞い申し上げます。高校野球が終わり今年は、早くも秋雨前線が現れ秋の気配が……。残念ながら石川県に優勝旗は届きませんでした。星陵高校と言えば、高校野球のOLDファンにとっては思い出深い試合があります。延長戦で表に2度も得点しながらその裏にそれも二死から2度とも本塁打で追い付かれ延長18回にサヨナラ負した野球漫画のような試合がありました。また、松井選手の5打席連続敬遠も伝説です。今年は、秋らしい秋が来ることを期待して(^^)

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076
電話 042-651-3131
FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp

**HIRAKAWA
HOSPITAL**

